

歴史的建造物の保存と活用

-横浜山手の魅力再発見！-

シンポジウム参加者募集



Photo by 林景澤

平成 26 年 9 月 27 日(土)に横浜市緑の協会設立 30 周年を記念したシンポジウムの参加者を募集します。

建築家の安藤忠雄氏による国内外の歴史的建造物の保存・活用実践事例などに基づく基調講演をはじめ、文化財保護に造詣が深い有識者など 6 名のパネリストをお招きしてパネルディスカッションを行うなど、横浜山手西洋館の価値と魅力を再発見し、次世代に繋げる横浜山手の文化創造を目指します。(基調講演者とパネリストの詳細プロフィールは裏面をご覧ください。)

【参加申込方法】

■募集期間

8 月 18 日(月)～9 月 17 日(水)まで

■応募方法

下記いずれかの方法による申込み(参加申込み多数の場合抽選、落選者のみ 9/19 までに連絡予定)

- 横浜市緑の協会ホームページ内、応募専用フォームからの申込み。
 (協会ホームページ <http://www2.hama-midorinokyokai.or.jp/>)
- 申込用紙による F A X 申込み(FAX 番号: **045-451-0872** 担当: 事務局 澤城宛)
 (申込用紙は告知チラシ、または協会ホームページから入手可能)

※電話での申込みは受け付けていません。

【開催概要】参加費無料

■日時 2014 年 9 月 27 日(土) 13:00～16:00 (開場 12:00～)

■場所 横浜市開港記念会館(481 名定員)

■構成 第一部/基調講演『次世代に継いでいく地域づくり』

第二部/パネルディスカッション『西洋館の魅力について語る～緑・街の歴史・文化の継承と創造～』

パネリスト(五十音順)

- | | |
|-------|------------------------------------|
| 越澤 明 | 北海道大学名誉教授、(一財)住宅生産振興財団顧問 |
| 堀 勇良 | (公社)横浜歴史資産調査会理事、元文化庁主任文化財調査官 |
| 水沼 淑子 | 関東学院大学人間環境デザイン科教授 |
| 森本 アリ | 神戸「旧グッゲンハイム邸」管理・運営者、音楽家 |
| 米山 淳一 | (公社)横浜歴史資産調査会常務理事、元日本ナショナルトラスト事務局長 |
| 渡辺 穂子 | 元横浜山手西洋館館長(横浜市民) |

■主催 公益財団法人 横浜市緑の協会

■後援 横浜市環境創造局



お問合せ先

維持課 課長 関 正彦 Tel 045-228-9430

【参考資料】

【講演者プロフィール】

◆安藤 忠雄(あんどう ただお)

大阪生まれ。独学で建築を学び、1969年に安藤忠雄建築研究所を設立。

代表作に「光の教会」「FABRICA(バネトンアートスクール)」「地中美術館」「横浜地方気象台」「東急東横線渋谷駅」「プンタ・デラ・ドガーナ」など。

1979年「住吉の長屋」で日本建築学会賞。受賞をスタートに国内外で受賞多数。2010年文化勲章、2013年フランス芸術文化勲章(コマンドゥール)。

2011年東日本大震災復興構想会議 議長代理。「桃・柿育英会 東日本大震災遺児育英資金」実行委員長。イェール、コロンビア、ハーバード大学の客員教授歴任。

1997年より東京大学教授、2003年より名誉教授。著書に「建築を語る」「仕事をつくる」など。

【パネルディスカッション パネリストプロフィール(氏名五十音順)】

◆越澤 明

東京大学大学院博士課程修了、工学博士。現在、北海道大学名誉教授、(一財)住宅生産振興財団顧問。社会資本整備審議会都市計画・歴史的風土分科会長、住宅宅地分科会長などを歴任し、都市再生特別措置法、景観法、歴史まちづくり法などの制定に関わる。鎌倉市市政功労者。横浜市緑の環境整備審議会委員も務める。日本都市計画学会、土木学会、都市住宅学会など受賞多数。主な著書は、『東京の都市計画』(岩波新書)、『東京都市計画物語』(ちくま学芸文庫)、『復興計画』(中公新書)など。

◆堀 勇良

東京大学大学院博士課程修了、工学博士。現在、(公社)横浜歴史資産調査会理事、横浜市歴史的景観保全委員。2005年、「履歴を通じての近代日本外国人建築家の研究」で日本建築学会賞(論文)を受賞。藤森照信とともに「東京建築探偵団」を結成。横浜開港資料館主任調査員、文化庁主任文化財調査官などを歴任。主な著書は、『日本の建築[明治 大正 昭和] 第10巻 日本のモダニズム』(共著、三省堂)、『建築探偵術入門』(共著、文春文庫)、『日本の美術N0.447外国人建築家の系譜』(至文堂)など。

◆水沼 淑子

日本女子大学大学院家政学研究科住居学専攻修了、工学博士。現在、関東学院大学人間環境学部人間環境デザイン科教授。近代日本における居住様式に関する研究を行う。また、近代建築資産活用方法検討委員会委員として横浜山手西洋館の調査を行う。主な著書は『日本居住史』(共著、吉川弘文館)、『ジェイ・H・モーガン アメリカと日本を生きた建築家』(関東学院大学出版会)など。

◆森本 アリ

Ecole de Recherche Graphique(ベルギー)卒。音楽家。神戸、塩屋の築105年の西洋館「旧グッゲンハイム邸」管理・運営者として、家族と共に住み、企業や行政とは一味違った管理運営を行う。音楽家として、「三田村管打団？」などで活動する傍らソロ演奏やワークショップ等も行っている。また塩屋の町の未来を心配し「塩屋百景」を立ち上げ、写真集2冊発行。塩屋の町にこのまま百年、二百年変わらないで欲しいと願う。

◆米山 淳一

獨協大学外国語学部英語学科卒。現在、(公社)横浜歴史資産調査会常務理事・事務局長、(一社)日本萱文化協会理事、日本鉄道保存協会事務局長ほか。岸信介事務所を経て(財)日本ナショナルトラスト事務局長を務め、全国で調査、保存、再生した歴史・自然遺産多数。現在は地域遺産プロデューサーとして各地で歴史を活かしたまちづくりプロジェクトを推進している。主な著書は『「地域遺産」みんなと奮闘記 プライド・オブ・ジャパンを求めて』(学芸出版社)、『まちづくりとシビック・トラスト』(ぎょうせい)、『歩きたい歴史の町並』(ジェイティビィパブリッシング)など。

◆渡辺 穂子

国学院大学文学部文学科卒。(公財)横浜市緑の協会に採用され、退職までの約12年間、横浜山手西洋館の管理運営に携わる。山手111番館館長、山手234番館館長を歴任、平成23年には横浜山手西洋館を統括する都心部・山手事業所長に就任し、横浜山手地域の振興にも尽力した。現在は横浜市中区在住のいち市民として、ボランティア活動等を通じ横浜山手西洋館の運営に協力している。

【告知チラシが入手可能な協会管理公園・施設(五十音順)】

海の公園/金沢動物園/上郷・森の家/岸根公園/こども植物園/清水ヶ丘公園体育館・プール/富岡総合公園/長浜公園/野毛山動物園/野島公園・博文邸/馬場花木園/本牧市民公園/俣野公園/俣野別邸庭園/緑の協会本部/山下公園駐車場/山手公園/横浜山手西洋館各館/よこはま動物園